

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂（Ver.3.0）の概要について

令和4年（2022年）7月4日
佐久市 企画部企画課

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要（令和4年（2022年）7月改訂）

基本的な考え方

第1期総合戦略による取組で得られた「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環の確実な弱まりを受け、この悪循環を反転させ、好循環に結び付けるための具体策に切れ目なく着手していくことが必要であることから、令和2年（2020年）3月に、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）

○ 「基本目標」、「基本的方針」の基本方針

- ・ 第1期総合戦略で設定した4つの基本目標は維持
- ・ 第1期のような網羅的なものではなく、中長期的なビジョンを持った上でこの時期何をすべきかを明確化し、特化・鋭角化
- ・ 「しごと」を作り、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」が活性化する「しごと」起点という性質に加え、本市の特性を踏まえ、「まち」起点、「ひと」起点による複合的なサイクルといった多角的アプローチにより好循環を確立

○ 「具体的な施策」の基本方針

あらゆる施策において立脚すべき考え方と、時代の流れを踏まえて横断的に適用すべき手法を新たに設定（立脚すべき考え方）

- ・ 卓越性を磨き、生かす施策展開/地域ごとの特徴を磨き上げ、個性化する施策展開/市民が誇りを持てる施策展開/若い世代の人の流れを具体化する施策展開/長期ビジョンを明確化した施策展開/人口減少を意識した施策展開（横断的に適用すべき手法）
- ・ ターゲットの明確化とそこまで届く情報発信/未来技術の活用/国外の活力の活用/民間の発想・資金・人材・技術のフル活用



基本目標

基本目標1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生	基本目標2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生	基本目標3 結婚・出産に先んじて子育てのトッランナーを目指す、佐久市における「しごと」の創生	基本目標4 多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生
○ 数値目標 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 基準値：78.0%（R1（2019）） > 目標値：80.0%（R6（2024））	○ 数値目標 人口の社会動態の増加数（計画期間の累計） 目標値：1,500人（R6（2024））	○ 数値目標 合計特殊出生率 基準値：1.59（H30（2018）） > 目標値：1.77（R6（2024））	○ 数値目標 市内事業所の従業員数 基準値：40,327人（H28（2016）） > 目標値：41,800人（R6（2024））

「まち」・「ひと」・「しごと」の創生で目指すべき将来

● 時代に適応した地域が作られ、ネットワークで結ばれ、住民が生きがい豊かに安心して暮らし続けている。	● 本市の卓越した魅力が生まれ、その魅力に惹かれて、若い人を中心に地域内外の多くの人が集っている。	● 若い世代の結婚、出産、子育ての希望がかない、安心して子どもを産み、育てている。	● 魅力的で多様性のある仕事生まれ育ち、住民が安心して働き、経済的な安定を得ている。
--	---	---	--

【目指すべき将来】

「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」を実現し、将来に渡って活力ある地域であり続ける。

【目指す人口】

「佐久市人口ビジョン（令和元年度改訂版）」に掲げる人口の将来展望の実現
 令和42年の目標人口＝約86,000人

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 体系図

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <体系図>

【目指すべき将来】「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」となり、将来に渡って活力ある地域であり続ける！

「まち」の創生

時代に適応した地域をつくる

「ひと」の創生

魅力を育み、人が集う

人口減少を和らげる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

「しごと」の創生

魅力ある仕事と経済的安定を生む

【第2期戦略で目指す方向】

基本目標

具体的な施策

施策立案で「立脚すべき考え方」と「横断的に適用する手法」

1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、
佐久市における「まち」の創生

(数値目標) 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合

- (1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進
- (2) 新たな技術でつなぐ地域間ネットワークの構築

【立脚すべき考え方】

卓越性を磨き、生かす

地域ごとの特徴を磨き、個性化する

市民が誇りを持てる

若い世代の人の流れを具現化する

長期ビジョンを明確化する

人口減少を意識する

2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 人口の社会動態の増加数

- (1) 知ったら行きたくなる・住み続けたくなる「シル」の推進
- (2) 来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進
- (3) 居たら住みたくなる・住み続けたくなる「スム」の推進

【横断的に適用する手法】

ターゲットの明確化と情報発信

未来技術の活用

国外の活力の活用

民間活力の活用

3 結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 合計特殊出生率

- (1) 子育て世代が実感する子育てのトップランナーの実現
- (2) 人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

4 多様な職場、多様な働き方から始める、
佐久市における「しごと」の創生

(数値目標) 市内事業所の従業者数

- (1) 新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出
- (2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進
- (3) 官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

改訂の内容

事業の追加による軽微な改訂

- 令和4年度一般会計当初予算及び一般会計補正予算（第4号）（6月補正）を反映

改訂による追加する主な施策

○ 基本目標1「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

本市への移住の傾向からは、「しごと」や「ひと」の創生に基づく動機に加えて、豊かな自然、快適な気候、高速交通網の充実、災害の少なさ、健康長寿といった特徴をもたらす「暮らしやすさ」など、「まち」の魅力が移住の動機となった例が多数確認されていることから、**本市の卓越性に磨きをかけて、「まち」の魅力をもっと高みに押し上げる**ことにより「ひと」や「しごと」を呼び込む、「まち」起点の取組を強化する。

（主な追加施策） ➤ 中込地区における「まわる」まちづくり、佐久大学と連携した地方創生の推進

○ 基本目標2「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における『ひと』の創生」

本市への人の流れの決め手を「暮らしやすさ」と据えたとき、これは、本市に一定期間関わって実感できる性質のものであり、まず「知る」ことから「来る」ことへ、「来る」ことから「住む」ことへ繋げる段階的アプローチが重要となることから、**この段階的アプローチを意識した施策の構築や展開を図り、人口の社会増のトレンドの確実化・一般化を推進**する。

（主な追加施策） ➤ 佐久市シティプロモーション基本方針（第2期）による事業展開、観光駐車場の整備（野沢地区）、移住につながる関係人口創出事業（日本酒、ガーデンボランティア）

○ 基本目標3「結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」

依然として人口の自然減の影響による人口減少が継続している。子どもを生み育てたいという希望が確実にある中、まずは既に子どもを生む選択をした家庭に対し、第1子を生むための支援や、第2子、第3子を生み育てるための不安の払しょくなどの対策を強め、**他に比肩しない子育て環境の充実**を図る。

（主な追加施策） ➤ 保育士・幼稚園教諭等を対象とする処遇改善に係る補助

○ 基本目標4「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生」

本市への移住の傾向からは、「しごと」は、移住の直接の目的としての位置付けより、他の要因による移住に際して暮らしの安定を担保するためとの位置付けが強い側面もあることから、その仕事があることで人を引き付けるような企業や職種の誘致・創出はもとより、多様な職場や働き方を設けることにも特に注力して、**暮らし続けるための安心の提供を推進**する。

（主な追加施策） ➤ 水田鮎養魚IoT活用事業、佐久平女性大学による女性への支援